

「第3次佐賀市立図書館サービス計画（案）」に関するご意見と市の考え方

No.	ご意見の概要	市の考え方
1	<p>以前、市へ正規の司書を増やしてほしいという要望書を提出したが、予算や他の課との兼ね合いで難しいという回答だった。理解は出来るが、勉強し経験を重ねた非正規の司書にとっては、先が見えず希望が持てないのではないか。図書館機能から見ても、市民にとっても、大きな損失と考えている。</p> <p>予算のことがあるのは重々承知しているが、ぜひ正規の司書職員を増やしていただきたい。</p>	<p>佐賀市の正規職員の定数については佐賀市職員定数条例で定められており、現状では正規の司書を増やすことは難しいため、司書の資格を持つ会計年度任用職員を採用し図書館の運営にあたっているところです。また会計年度任用職員については期末手当や通勤手当等、以前と比べ待遇面での改善を行っております。</p>
2	<p>以前開催されていた金曜シアターの記載が無いが、とても楽しみにしていた。参加者も多く、利用のきっかけづくりに繋がっていたので、改修工事のあとには是非また開催していただきたい。</p>	<p>金曜シアターに関しては、所蔵する上映権付DVDをほぼ上映し終わったこと、上映権付DVDが高額であるため予算面から多くは購入できないことなどから、休止いたしました。毎回同じ方が来られていたこともあり、新しい利用者呼び込むという一定の目的は達成できたと考えております。</p> <p>今後についてですが、コロナ禍において、以前のように大勢の皆様に入っていただくことが難しい現状でもあるため再開については当面難しいことをご理解いただければ幸いです。</p>
3	<p>「めざす子ども像」の「佐賀の歴史や文化等を学ぶ」ことは、自分の足元を見つめ自立するためにもとても大切なことだと考えている。中学生頃から利用が減る（p.10）のは理解できるが、学校とも連携して、機会を増やしていただけたらと思う。</p>	<p>子どもを対象とした郷土に関するパスファインダー（特定のテーマに関する文献、情報の探し方・調べ方の案内をまとめたもの）を作成して学校で紹介する予定としており、調べ学習に役立ててほしいと考えています。P.44の「郷土に関する調べ学習を支援する取組」として記載しています。</p>
4	<p>「視覚障害者等の読書環境の整備に関する法律」や“多様な人々が集う図書館”に、「視覚障がい、発達障がい、肢体不自由</p>	<p>p.57の「図書館の利用に障害がある人へのサービス」については、「障がいにより図書館の利用や読書が困難な人へのサービス」に表現を改めまし</p>

	<p>由などの障がいによって読書が困難な人々へのサービス」について記載がある。</p> <p>それならば、「令和 3 年度予定事業・サービス一覧」の「障害がある人へのサービス」(p.57)にも、視覚障害だけでなく(障がいによって読書が困難とひとくくりせず)発達障がい、肢体不自由な方に対するサービスに言及して欲しい。何らかの対応を考えていると姿勢を見せて欲しい。</p>	<p>た。</p> <p>また、p.57 に記載しているサービスについても視覚障がいの方だけを対象にしたサービスではないため、表現を一部修正しました。</p> <p>なお、佐賀市立図書館では、図書館利用に障がいがある方へ次のようなサービスを行っております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚障がい等の方・・・郵送による貸出、対面朗読サービス、点字資料・大活字本の提供など ・来館が困難な肢体不自由等の方・・・宅配による貸出など ・発達障がい等の方・・・マルチメディアデイズー図書館の提供など <p>読書バリアフリー法の施行により、関係団体等との連携をさらに取りながら、今後のサービスのあり方の検討を行います。</p>
5	<p>p.5 の「図書館費決算額推移」グラフについて、[消費税増税][久保田館開設][資料購入費の増額][非常勤職員の雇用形態の変化]の割合(%)を記載して欲しい。</p>	<p>該当のグラフは図書館費全体の決算額を示したものです。個別の費目などの数字をグラフ内に追記すると、縦軸に記載すべき数字の幅が大きくなり、図書館費全体の増減が非常にわかりづらくなることから、現状どおりとさせていただきます。</p> <p>参考までに、[久保田館開設資料購入費][全館の資料購入費(久保田館分含む)][非常勤職員の報酬・手当]の決算額を回答させていただきます。</p> <p>[久保田館開設資料購入費] R1 年度：11,954 千円 R2 年度：4,288 千円(当初予算額) [全館の資料購入費(久保田館開設分含む)]</p>

		<p>※p.18にもグラフを掲載しております。</p> <p>H28年度：53,300千円 H29年度：49,901千円 H30年度：57,421千円 R1年度：66,533千円 R2年度：59,739千円(当初予算額)</p> <p>[非常勤職員の報酬・手当]</p> <p>H28年度：129,417千円 H29年度：129,017千円 H30年度：129,479千円 R1年度：132,165千円 R2年度：143,195千円(当初予算額)</p> <p>※[消費税増税]については、増税の影響を受ける支出とそうでない支出があることや、令和元年度中の増税であったことから、影響を受けた額の算出が困難です。</p>
6	<p>p.11のレファレンスサービスに関して、佐賀市立図書館では本を探すのに苦勞(サイズやテーマで別置)することがあり、サービスカウンターで聞くことがある。レファレンスの件数に加えてあるかどうかはわからないが、事例を考察すれば利用改善につながることもあるのではないかと。アナウンスの工夫があれば、自力で探せるかもしれない。</p>	<p>本場所を案内する等の簡易なものもレファレンスの件数に含めています。もちろん気軽に聞いていただいて構わないのですが、その件数が多ければ良いというものではなく、ご意見のとおり、探しやすくする工夫も必要です。大きい本や請求記号順に並んでいないものについては表示してお知らせしていますが、より分かりやすいものにしていきたいと考えています。</p>
7	<p>対面朗読ボランティアの登録者数が微減しているが、対面朗読ボランティア養成講座にあわせてパソコンやスマホの読み上げ機能などを紹介して当事者や家族に文字文化に親しむ機会を提供してはどうか。</p>	<p>対面朗読ボランティア養成講座の実施については、社会情勢やさまざまな環境の変化に伴い、今後あり方の検討が必要だと考えます。</p> <p>「当事者や家族の方への機会の提供」については、今後の参考とさせていただきたいと思います。</p>
8	<p>「図書館資料の整備」について、p18に</p>	<p>視聴覚資料も含めた蔵書の内訳など、図書館</p>

	<p>視聴覚資料の利用が減少しているところがあるが、所蔵数も減っている。視聴覚資料の所蔵の内訳が知りたい。</p>	<p>に基本的な業務統計については、毎年作成する「図書館要覧」に記載し、図書館のホームページで公開しています。本計画にも様々な統計データを掲載したいところですが、資料のボリュームが膨大になることから抜粋して記載しております。</p> <p>本計画は図書館のホームページと佐賀市役所のホームページに掲載する予定ですが、要覧についても図書館のホームページに掲載しているため、相互のページにリンクを貼るよういたします。</p>
9	<p>ビデオ、DVD、CD、カセットテープ：実際借りて再生できるのか。確かに音楽や動画のコンテンツは簡単に利用できるが、アンケートにある「不満・やや不満：23%」の数字も要望を表しているのだから、わずかでも利用が見込まれる作品の購入を期待している。著作権がらみで高価という実態も利用者に説明が必要ではないか。著作権について考える機会にもなると思う。</p>	<p>視聴覚資料については、「図書館への手紙」や「利用者アンケート」でも要望をいただいております。「図書館への手紙」の回答として図書館のホームページに掲載しています。</p> <p>図書館としての収集方針や著作権の関係で高価であるといった実情を知っていただくため、図書館ホームページの視聴覚資料一覧のページやよくある質問等に掲載する等より良い方法を検討していきます。</p>
10	<p>p50に記載にしている「パスファインダー」という語句は一般市民にはわかりにくい。パスファインダー(調べ方の案内)などの日本語表記が欲しい。</p> <p>レファレンスサービスが人を介するもので、パスファインダーがデータを提供することだとわかると、理解につながるのではないかと。</p>	<p>パスファインダーについては、p50 表中の「概要」欄で“特定のテーマに関する文献、情報の探し方・調べ方の案内をまとめた「パスファインダー」と記載しております。</p> <p>「具体的な事業またはサービス」欄についても、ご指摘のように「パスファインダーの作成(調べ方の案内)の作成」と修正いたします。</p>
11	<p>p 50 からのサービス一覧に URL や QR コードを表記してはどうか。</p>	<p>図書館のホームページで案内を行っているサービス等について、「令和3年度予定事業・サービス一覧」に QR コードを記載しました。QR コードを読み込むと、図書館ホームページの関連ページにアクセスできます。</p>
12	<p>先日「屋外読書スペース」を利用したいと</p>	<p>図書館の閲覧スペース以外の施設についても</p>

	<p>思ったが、どこから行くのかわからなかった。案内や動線表記があるとありがたい。</p>	<p>利用者に分かるように案内図を作成して掲示いたします。</p>
13	<p>p.5 の「分館・分室・自動車図書館の運営による全域サービス」の項目のなかで、【設置規模】の中に自動車図書館に関する記述が無いが、何か理由があるのか。</p> <p>また、p.8 の係別職員配置数に自動車図書館の職員数を記載して欲しい。</p>	<p>ご指摘の【設置規模】については、図書館の施設整備について定めたものです。そのため、自動車図書館については記載がありません。</p> <p>p.8 の係別職員配置数については、総務企画係、サービス一係、サービス二係の担当別の職員数を備考欄に追記いたしました。なお、自動車図書館担当の職員数は2名です。</p>
14	<p>p.5 の「分館・分室・自動車図書館の運営による全域サービス」について、合併して地域が広がっているが、市民に公平なサービスが出来るような体制が整っているのか。</p> <p>自動車図書館 1 台で網羅出来ているのか。</p>	<p>合併して市域が広がりましたので合併町村には分館を整備してきたところです。</p> <p>それに伴い自動車図書館は主に分館から離れている遠隔地を巡回しています。自動車図書館のステーションについては、市民に公平なサービスができるよう要望も踏まえ毎年見直しを図っているところです。</p>
15	<p>p.27 に記載がある「中高生の利用登録率が6割を超えるのに、貸出点数は低い」という課題への解決策が、「SNSを利用して図書館の魅力や活用方法を伝える」「ヤングアダルトコーナーの設置」と記載されているが、職業案内コーナーや、各種大学専門学校コーナーの設置も考えていいのではないのか。</p>	<p>中高生に図書館の魅力を伝えるためにはSNSもその一つですが、あらゆる手法でいろんな方面から働きかける必要があります。費用対効果も含め今後検討していきます。また、職業案内や各種大学専門学校案内も含めたヤングアダルトコーナーのあり方や学校図書館への支援に関しても市民の皆様のご意見を取り入れながら検討していきます。</p>
16	<p>利用のきっかけとなるイベントや市民向け講座に、年に1回でもいいので、著名な絵本作家や作家を呼んで欲しい。1年目は幼児向け、2年目は小学生、3年目は中学、高校生向け、4年目は障がい者向け、ビジネス支援講座、5年目は高齢者向けなど、5か年に分けて、年齢別に、公平なサービス</p>	<p>予算との関係もありますが、著名な絵本作家などを講師にお招きするのも有効な手法です。今後も来館のきっかけとなるイベントについては、世代や属性などを考慮して開催していきます。</p>

	が行き届くような計画をして欲しい。	
17	付録2の「令和3年度予定事業・サービス一覧」に記載された事業やサービスのうち、新規事業については新規だと分かるような標示をして欲しい。	令和3年度に実施予定の新規事業について、【新規】と標示を加えました。 なお、ご指摘の付録は令和3年度に予定している事業やサービスの一覧を記載したものであるため、令和4年度以降に予定している新規事業については記載しておりませんが、令和4年度以降も、本計画に沿って事業の実施ややり方改善に努めていきます。